

高齢者と共に輝いて生きる時、家族が変わる。社会が動く。

おじいちゃんはやつくり成長するタイプ。
 八十三歳の自立、一家の主夫に大変身。
 老いるとは、新しい自分に出会いつづけること。

女は結婚すると、ふつう親が四人になる。
 介護で力尽きるまえに自分を生きたい。
 祖母・母・娘、涙と笑いの自立と共生。

老親ろうしん

原作 門野晴子

「老親を棄てられますか」
 主婦の友社 講談社
 「寝たきり姿あ猛語録」講談社

劇映画 1時間52分/35mm
 製作 東京女性財団助成作品

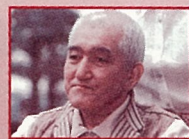
監督 槇坪夢鶴子
 第五回監督作品



萬田久子



草笛光子



米倉斉加年



榎木孝明



岡本綾



小笠原町子



小林桂樹

原ひさ子 金久美子 笠原神司 前田未来 大竹博人 小林泉 福原秀雄 山本弘 尾田量正 小松健悦 蓬萊照子 田中義章 伊藤ゆきえ
 小山内一雄 向井修 和泉敬子 田中忠理 朝比奈深子 椿基之 中嶋洋子 杉本悦子 前田由美 正岡邦夫 山本勢津子 長曾我部啓子 安並和沙
 岩橋道子 能勢文仁 濱田和幸 工藤真史奈 三宅博之 久保田理香 / 松沢たかひ 木島知草
 山田栖峯子事務所 草瑠社 オフィス・タカ スターズファクトリー 仕事 小野事務所 俳協 劇団朋友
 関西芸術座 スターダスプロダクション キネマ工房 Me&Her 劇団ひまわり 劇団日本児童 東京児童劇団 劇団HOTROAD / 小林桂樹事務所

製作 『老親』製作委員会 企画製作パオ(有)

TEL 03(3327)3150
 FAX 03(5376)8462
 URL <http://www.pao-jp.com>

企画制作・監督 槇坪夢鶴子 / 原作 門野晴子 / 脚本 原田佳夏 / 製作 光永憲之 / 撮影 藤沢順一 / 照明 小嶋真二 / 録音 木村瑛二 / 編集 普嶋信一
 音楽 光永龍太郎 増永真樹 / 美術 成田ヒロシ / スクリプター 井上かづえ / 着付け 長野陽子 / メイク 泉宏幸 福島久美子 / 監督輔 金佑宣 / 製作担当 鈴木康敬
 衣裳 東京衣裳(株) / 撮影機材 (株)ナック / 照明機材 ハイ・ライト(株) / フィルム 報映産業(株) / 効果 東洋音響カモメ / 録音スタジオ 日活撮影所 / 現像所 (株)IMAGICA

世界の名画を見る会 vol.17 企画・構成 高野悦子



高野悦子

● 講演・(14:00~14:45)

「老親とともに生きる」

● 上映作品・(15:00~)

「老親 ろうしん」

(2000年日本映画 / カラー / スタンダード / 112分)

お問い合わせ

財団法人 黒部市国際文化センター
 TEL(0765)57-1201

プレイガイド

黒部	カラーレ メルシー ロイヤルバリー黒部	☎(0765)57-1201 ☎(0765)54-2221 ☎(0765)54-1000
魚津	新川文化ホール 魚津サンプラザ	☎(0765)23-1123 ☎(0765)24-3030
入善	コスモホール コスモ21	☎(0765)72-1105 ☎(0765)74-9100
宇奈月	宇奈月国際会館	☎(0765)62-2000
朝日	アスカ	☎(0765)82-2000
富山	インフォマート [市民プラザ] [CiC 駅前店]	☎(076)491-0110 ☎(076)444-7013
高岡	高岡大和	☎(0766)27-1774

2001

12月9日(日)

開場 13:30

開演 14:00

黒部市国際文化センター カラーレ(カーターホール) 入場料/全席指定 1,500円

ろう 親

2000年日本映画/カラー/スタンダード/112分

6巻/3,074m

企画・製作・配給：企画制作バオ(有) 「老親」製作委員会
(財)東京女性財団助成作品



スタッフ

企画・制作・監督……榎坪夢鶴子
原作……門野晴子
『老親を棄てられますか』
(主婦の友社刊 講談社文庫刊)
『寝たきり婆あ猛語録』
(講談社刊)
製作……光永憲之
脚本……原田佳夏
撮影……藤沢順一
照明……小嶋真二
録音……木村瑛二
編集……菅嶋信一
音楽……光永龍太郎、増永真樹
美術……成田ヒロシ
監督輔……金佑宣
製作担当……鈴木康敬

キャスト

隅田成子 (40歳~53歳)……萬田久子
舅 隅田兼重 (76歳~87歳)……小林桂樹
母 鈴木まさ (67歳~80歳)……草笛光子
父 鈴木義助 (69歳)……米倉斉加年
夫 隅田信重 (45歳~56歳)……榎木孝明
娘 隅田聡子 (16歳~22歳)……岡本 綾
息子 隅田喜生 (19歳~24歳)……笠原紳司
妹 鈴木昌子 (36歳~46歳)……金久美子
叔母 隅田たえ (60歳~71歳)……小笠原町子
田中さん……原ひさ子(友情出演)
隅田聡子 (11歳~12歳)……前田未来
隅田喜生 (14歳~15歳)……大竹博人

*関西芸術座・劇団朋友の皆さまを始め、多数の方々が出演しています。

原作 門野晴子

『老親を棄てられますか』主婦の友社 講談社
『寝たきり婆あ猛語録』講談社



末期癌の実父の介護に実母を助け、その最中に
姑が脳溢血で逝き、オトノサマの舅が残され……
とこの映画に描かれた通りのヨメ道を歩いたあげく、
「家」の残滓から脱走した。
舅が追いかけて来て思いがけない「蜜月」を見た
ことが映画のクライマックス。

4人目の老親、実母の介護がはや9年。自分の人生の主人公になりたくて、離婚したにも関わらず、親の為に通算24年間も生きているうちに、今年で63歳、立派な婆あとなってしまう。「私の時間を返せ!」と誰に向かって吠えればいいのか。

榎坪監督が車椅子で、その脇には痴呆の母親というコンビで撮影をしていた。女が歯をくいしばって介護する国なんて、男も幸せであるはずが無い。優しく老若男女が共生する社会こそ未来も輝くのでしょう。



岩波ホール総支配人 高野悦子



私は母の介護を11年間、自宅で行ったが、それは想像以上に悪戦苦闘の毎日だった。そして、母が97歳で死んだ時、気がつけば私自身も老人のお仲間になっていた。誰もが老いてゆく。そして誰もが人間としての尊厳をもって生き、死にたいと望んでいる。人は老いの問題と真剣に対峙せざるを得ないのである。

榎坪夢鶴子監督の「老親 ろうしん」は、原作者・門野晴子さんの体験に基づく老人介護の生活を、感動的に描く。

榎坪さん自身も、老親を介護しながらの撮影だった。

この映画の中には、日本女性たちの希望が一杯つまっていて、見る者に勇気と共感を与えてくれる。

この作品は、介護保険が実施される以前の物語だが、この制度も女性たちの叫びをくみ取って、より良くなっていくことを、切に願っている。

高齢者と周囲の人が、共に輝いて生きるとは……。ある家族を通して、これからの社会のあり方を考える。

監督 榎坪夢鶴子

『子どもたちへ』『若人よ』
『地球っ子』『わたしがSuKi』

企画意図



私は慢性関節リウマチで、痴呆の実母84歳(要介護2)と共同生活しており、養父(要介護4)は大阪の介護施設で頑張っています。

映画「老親 ろうしん」は老親介護の生活を描くなかで、性別役割分担や女の生き方を問い直し、高齢者の自立を見つめています。オトノサマで生きてきた舅が、初めて一人の人間として元嫁に対等に向き合うことができ、いのち輝かせ、83歳にして自立、自己決定権を行使します。

孫娘の「おじいちゃんはゆっくり成長するタイプ」という発想は、介護で苦しむ主人公・成子の生き方を前向きに、暖かくユーモラスに描くのを可能にしました。

介護の原点は、対等な人間関係のふれ合いにあるのでは……。

介護する人、される人の人権を保障し、その人らしく生きる為に何が大切なのか……。この映画が、観た人にとって老親介護、なかでも介護保険を自分たちの問題として捉え、生き方・老い方について話し合うキッカケになれば幸いです。

ストーリー

長男の嫁で専業主婦の成子(40歳 萬田久子)は、姑の死後、子どもと共に東京を離れ、残されたオトノサマ舅・兼重(76歳 小林桂樹)と奈良・斑鳩(いかるが)で7年間を過ごす。

「舅や夫の世話や介護で生きるなんてまっぴらだ。自分を生きたい」と成子(47歳)は夫(52歳 榎木孝明)と離婚し、「家」や「嫁」から開放され、娘(18歳 岡本綾)と共に東京に戻り、作家としての自立を志す。ところが他人となったはずの兼重(83歳)が「ただいま」と転がり込んで……。

自分のことすら何一つ出来なかった舅が、半年で一家の主夫に大変身。成子親娘を支える生活に生きがいを見出していく。気がつけば奇妙な同居生活。その兼重も去り、落ち着きを取り戻した頃、今度は骨粗しょう症で寝たきりの実母・まさ(80歳 草笛光子)を引き取るはめになる。

実母、成子、娘、女三世代の同居の始まり。成子にとって、老いと共生をめざす日々の幕開けだった。

